

「仙台市スポーツ賞 功労賞 運用見直し」(案)について

1. 調査結果

- 審議会での議論を踏まえ、関係諸団体に対してアンケート調査を実施。調査対象 67 団体中、47 団体より回答あり(回答率 70.2%)。
- 通算活動期間と該当人数の状況は次のとおり。

活動期間	0～5 年未満	5～10 年未満	10～15 年未満	15～20 年未満	20～25 年未満	25～30 年未満	30～35 年未満	35～40 年未満	40～45 年未満	45～50 年未満	50 年以上
該当者	143	191	137	121	141	67	54	64	98	26	12
年平均	28.6	38.2	27.4	24.2	28.2	13.4	10.8	12.8	19.6	5.2	2.4

- 活動期間について、事務局がたたき台として設定した「30 年以上」に該当する方は、254 名。
- 一方、審議会において具体的に例として挙げた「40 年以上」に該当する方は、136 名程度
- 表中、「該当者」人数が、各「活動期間」に均一に存在すると仮定した場合、「年平均」該当者人数は、表のとおりとなる。「30 年以上」、「40 年以上」であっても毎年、該当者が 10 名程度ずつ生まれる見込みとなる。
- 候補者全体のうち、「30 年以上」に該当する方の占める割合は約 24.1%、「40 年以上」に該当する方の占める割合は約 12.9%。

2. 検討案

- 継続的活動をされた方をできる限り讃えるという趣旨で見直しをすとしても「30 年以上」の場合、初期該当者数が候補者の“4 人に 1 人”にのぼるといことで少々対象者数が多すぎる懸念がある。
- 一方、審議会においても具体例として挙げられた「40 年以上」については、“20 人に 3 人”といことで表彰としての意義が確保されると考える。
- 活動期間の条件設定があまりに厳しい場合、継続的に該当者がうまれるか懸念が生じるものの、アンケートの結果、「40 年以上」の場合でも、継続的に毎年 10 名程度ずつ該当者が生じる見込み。「50 年以上」の場合には該当者が少なく、5 名程度の見込みとなる。
- 以上を踏まえ、継続的活動の基準年としては、「40 年以上」とし、この点について、事務局案として審議会にお諮りしたい。

3. 備考

- 単年度の受賞者上限を設定しない場合、見直し初年度の該当者が大幅に増加することになってしまう可能性があることを踏まえ、見直しに際しては、継続的活動の基準年を見直すとともに、該当者上限(「該当者のうち高齢の者からおおむね 40 名までとする」など)の設定も考慮する。
 - 仮に「40 年以上」という基準年に対して、「高齢の者から 40 名まで」という条件を付した場合、制度見直しから 5 年程度で“表彰待ち”が解消される見込み。

【功労賞の該当者上限に応じた式典規模見込み】

功労賞該当者上限	解消年数	想定総人数	例年の出席人数	
20 名	13 年	236 名	●総数	196 名
40 名	5 年	276 名	・受賞者	80 名
60 名	3 年	316 名	・同伴者	80 名
			・関係者	36 名

※例年の出席者人数に、功労賞受賞者および功労賞受賞者と同数の同伴者の増加を想定。